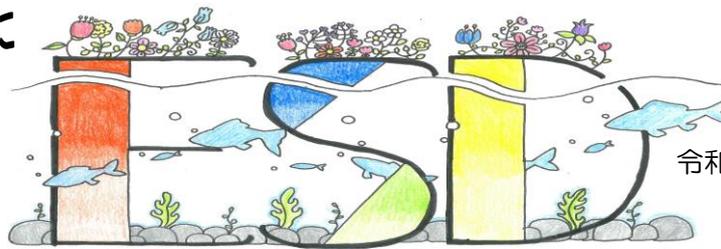


笑顔あふれる 世界のために
できることから始めよう!



令和3年 2月 3日発行
第1号

南稜中学校は豊橋市教育委員会より「ESD～持続可能な開発のための教育～」についての研究を委嘱され、令和元年度から学校生活のさまざまな場面でESDの視点を取り入れた活動に取り組んでいます。

ESDとは…?

Education for Sustainable Development (持続可能な開発のための教育)の頭文字です。現代社会に生きる私たちは、環境や人権、災害や戦争など、さまざまな問題を抱えています。持続可能な開発とは、環境の保全と経済の発展をバランスよく進めていくことです。そんな社会の担い手をつくるのがESD。生徒の視点で考えると、現在の生活のことも考えながら、自分たちの子孫も現在と同じように豊かな生活(エネルギー資源に満ちた世界・戦争のない平和な世界など)が送れるような生活をしていくこと。南稜中学校では、「**笑顔あふれる世界のためにできることから始めよう**」というキャッチフレーズを使っています。

ESDで育てたい3つの力

持続可能な社会の創り手としての能力・態度として、南稜中学校では次の3つの力を育てています。

① 課題を解決する力

自分の課題を設定し、解決方法について見通しをもつとともに、さまざまな視点から探究することができる。調べたことをいろいろな立場や視点で分類し、根拠を明らかにしながら自分の考えをもつことができる。

② 伝え合う力

目的や意図に応じて、自分の主張をわかりやすくプレゼンテーションすることができる。

相手の考えと自分の考えを比較しながら話し合うことで、自分の考えをより深化することができる。

③ 行動する力

グローバルな視点でよりよい社会の在り方について自分の考えをもち、その実現に向けてはたらきかけることができる。学習を通して学んだ考えや思いを生活に生かし、自分のこれからの人生を見つめることができる。

知っていますか? SDGs(エスディージーズ)

Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)の頭文字からできています。世界の国も地域も企業も個人も、あらゆる人が協力して世界の明るい未来のためにがんばろうと国連で決めた2030年までの17の目標です。南稜中の総合学習では、14「海の豊かさを守ろう」15「陸の豊かさを守ろう」11「住み続けられるまちづくりを」に重点をおいています。



南稜中学校のESDについて紹介されているホームページ

○ユネスコスクール公式ウェブサイト→加盟校情報より南稜中をクリック

ユネスコスクールとは、ESDの推進拠点で、豊橋市内すべての小中学校が加盟しています。

○愛知県水質パトロール隊事業→2020年度活動レポート一覧に近日公開予定

○豊橋市立小中学校情報ネットワーク→豊橋のESD活動-各学校の取り組みより南稜中をクリック
南稜中学校のホームページも随時更新しておりますので、ぜひご覧ください。

ESDの実践① 梅田川を単元の柱とした3年間の総合的な学習の時間

校歌の最初に登場し、南稜中校区の誇りでもある「梅田川」を柱に据えた単元を構想し、全学年で実践しました。

1年生は「梅田川にふれる一故郷の自然を再発見」とし、豊かな生態系に気づくとともに、水質汚染・海洋ゴミ問題について考えました。2年生は「梅田川とともに生きる一わたしたちにできること」とし、梅田川の河川氾濫とそれに伴う避難所運営などの防災学習と梅田川の上流・下流の違いについて学習しました。3年生では、「梅田川を未来へつなぐー持続可能な社会の実現にむけてー」とし、これまでの学びをもとに視野を世界へと広げ、SDGs達成のために自分たちにできることを考えました。

2年生の様子

梅田川リサーチ（現地調査）では、上流から下流に向かって水が汚れていることや、川幅や水の流れる速さによって堤防の高さや材質に違いがあることに気づきました。防災について追究を深める生徒たちは、避難所の運営について自治会長に質問したり、避難所生活を体験したりすることで、災害時を想像し自分たちにできることを考えることができました。

（写真は水質調査の様子）



ESDの実践② 地域貢献ボランティア

地域からの要望に中学生が応える地域貢献ボランティアも今年で3年目を迎えました。今年度はコロナウイルス感染拡大防止のため、残念ながら地域からの要望は1件のみでした。しかし、生徒会執行部が校内の草取りボランティアを募集し、休日にもかかわらず110名の生徒が参加しました。地域からの要望に応えるだけでなく、学校をよりよくするために自分たちから動き出すことができたことに、生徒たちの大きな成長を感じました。来年度は梅田川フォーラム（環境美化活動）を生徒主体で実施し、より地域に貢献していきたいです。



一生懸命草を抜くボランティア

ESDの実践③ つながいを意識した活動～大崎小学校との連携、縦割り団の連携～

昨年12月に、南稜中2年生と大崎小4年生が合同で梅田川の調査しました。水質調査の手順を説明したり、一緒に干潟の生き物を探したりする中で、中学生は自然と小学生のことを考えて行動できるようになり、伝え合う力や行動する力が育っていくのを感じました。2月には、1年生の代表者が大崎小を訪問し、2年生はオンラインで、お互いに総合的な学習の時間に学んだことを発表しあいました。また、既存の縦割り班活動を発展させ、1年生と2年生が合同で総合成果発表会を実施する予定です。これらの活動を通して、自分の主張をわかりやすくプレゼンテーションする力を育成しています。



大崎小とのオンライン会議

学校評価アンケート結果と来年度に向けて

「あなたは、梅田川をテーマにした総合的な学習では、自ら課題をもち、その課題を解決するためにすすんで学習することができましたか」という設問に関して、「そう思う」と回答した生徒は全体の29.5%、どちらかとそう思うは49.3%でした。来年度は今年度の学びを土台に、各学年でさらに一歩進んだ追究をしていくことで、「そう思う」と回答する生徒の割合を伸ばしていきたいと思えます。